26　「日記」藤原　─中古の日記

18年度　上智大学

★　次の文章は『蜻蛉日記』の一節である。病気になり自宅で療養している夫、兼家のもとに、作者は夜、ひそかに見舞いにいく。これを読んで、後の問に答えよ。

　火ともしたる、かい消たせて降りたれば、１いと暗うて、入らむかたも知らねＫば、「あやし、ここにぞある」とて、手を取りて導く。「２など、かう久しうはありつる」とて、日ごろありつるやう、くづし語らひて、とばかりあるに、「火ともしつけよ。いと暗し。３さらにうしろめたなくはな思しそ」とて、屛風のうしろＰに、ほのかにともしたり。「まだなども食はず、今宵なむおはせＬばもろともにとてある。いづら」など言ひて、ものまゐらせたり。すこし食ひなどして、禅師たちありけれＭば、夜うち更けて、護身にとてものしたれば、「いまはうち休みたまへ。日ごろよりは少し休まりたり」と言へば、大徳、「しかおはしますなり」とて、立ちぬ。

　さて、夜は明けぬるを、「ア人など召せ」と言へば、「イ何か。まだいと暗からむ。しばし」とてあるほどに、明うなれば、をのこども呼びて、上げさせて見つ。「ウ見たまへ、草どもはいかが植ゑたる」とて、見出だしたるＱに、いとかたはなるほどになりぬ」など急げば、「なにか。いまは粥などまゐりて」とあるほどに、昼になりぬ。さて、「４いざ、もろともに帰りなむ。または、ものしかるべし」などあれば、「５かくまゐり来たるをだに、人いかにと思ふに、御迎へなりけりと見ば、いとうたてものしからむ」と言へば、「さらば。をのこども、車寄せよ」とて、寄せたれば、乗るところにも６かつがつと歩み出でたれば、いとあはれと見る見る、「いつか、御ありきは」など言ふほどに、涙うきＲにけり。「いと心もとなければ、明日明後日のほどばかりＳにはまゐりなむ」とて、いとさうざうしげなる気色なり。すこし引き出でて、牛かくるほどに見通せＮば、ありつるところに帰りて、見おこせて、つくづくとあるを見つつ引き出づれば、心にもあらで、７かへりみのみぞせらるるかし。

〈注〉○護身…護身法のこと。密教において心身を守るために行う法。

問１　傍線部１「いと暗うて」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　作者の来訪を家の他の者に悟られないようにするため、迎えに出た兼家が火を従者に消させたから。

ｂ　車から降りるとき人目につかないように、兼家が待ち受けて灯しておいた火を作者は従者に消させたから。

ｃ　車から降りる時自分の姿がわにならないように、従者に持たせたを作者自ら吹き消したから。

ｄ　ひそかな訪問のため、兼家の家に灯されていた灯火が風が吹いて消された時を見計らって、車から降りたから。

問２　二重傍線部Ｋ～Ｎの接続助詞「ば」のうち、上に接続する語の活用形が他の三つと異なるものを一つ選べ。

ａ　Ｋ　　ｂ　Ｌ　　ｃ　Ｍ　　ｄ　Ｎ

問３　傍線部２「など、かう久しうはありつる」と言った時の兼家の心情としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

ａ　なぜすぐに灯火をつけないのかという気持ち。

ｂ　なぜ早く部屋の中へ入って来ないのかという気持ち。

ｃ　作者とこんなにすぐ逢えるとは思わなかったという気持ち。

ｄ　作者と逢うのが待ち遠しかったという気持ち。

問４　傍線部３「さらにうしろめたなくはな思しそ」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　少しも心配なさることはない。

ｂ　これ以上心配なさってはいけない。

ｃ　決して引け目をお感じになってはいけない。

ｄ　これ以上引け目をお感じになる必要はない。

問５　二重波線部Ｐ～Ｓのうち、品詞が他の三つと異なるものを一つ選べ。

ａ　Ｐ　　ｂ　Ｑ　　ｃ　Ｒ　　ｄ　Ｓ

問６　波線ア～エは、誰の言葉か。その組み合わせとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

ａ　ア…兼家　　イ…作者　　ウ…兼家　　エ…作者

ｂ　ア…兼家　　イ…作者　　ウ…作者　　エ…兼家

ｃ　ア…作者　　イ…兼家　　ウ…作者　　エ…兼家

ｄ　ア…作者　　イ…兼家　　ウ…兼家　　エ…作者

◎問７　傍線部４、５の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

ａ　兼家が作者に、一緒に作者の家に行こうと戯れたのに対し、作者は、療養中の兼家を迎えに来たのだと人に思われたら嫌だと返している。

ｂ　作者が兼家に、一緒に作者の家に帰ろうと頼んだのに対し、兼家は、女性である作者の方から夫を迎えに来たと知れたら大変だと断っている。

ｃ　兼家が作者に、人に知られないうちに従者とともに帰ってほしいと言ったのに対し、作者は、自宅から迎えが来なければ帰ることはできないと返している。

ｄ　作者が兼家に、従者とともに帰るとお別れの言葉を述べたのに対し、兼家は、今回の逢瀬では物足りないので帰ったら迎えを寄こしてほしいと頼んでいる。

問８　傍線部６「かつがつと歩み出でたれば」とは兼家のどのような様子を表しているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　病気を感じさせないしっかりした足取りで出てきた様子。

ｂ　大慌てで、ドタバタと出てきた様子。

ｃ　やっとといった具合で危ない足取りで出てきた様子。

ｄ　ドンドンと足音を立てて不満そうに出てきた様子。

問９　傍線部７「かへりみのみぞせらるるかし」から分かる作者の心情はどのようなものか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　兼家が次にいつ自分のもとを訪れてくれるのか気がかりである。

ｂ　病気が快癒しない兼家のことが心配でたまらない。

ｃ　兼家の病状が着実に良くなっているのを安心している。

ｄ　兼家を残して一人で帰ってきたのを後悔している。

問10　次のＡ～Ｅの作品を成立年代の古い順に並べたものとして正しいものを次の中から一つ選べ。

Ａ　『土佐日記』　　Ｂ　『山家集』　　　Ｃ　『古今和歌集』

Ｄ　『更級日記』　　Ｅ　『蜻蛉日記』

ａ　Ａ→Ｃ→Ｅ→Ｂ→Ｄ　　ｂ　Ｅ→Ａ→Ｄ→Ｂ→Ｃ

ｃ　Ｂ→Ｅ→Ｄ→Ａ→Ｃ　　ｄ　Ｃ→Ａ→Ｅ→Ｄ→Ｂ

ｅ　Ｃ→Ｄ→Ａ→Ｂ→Ｅ　　ｆ　Ａ→Ｄ→Ｃ→Ｅ→Ｂ

【解答】

問１　ｂ

問２　ｂ

問３　ｄ

問４　ａ

問５　ｃ

問６　ｄ

問７　ａ

問８　ｃ

問９　ｂ

問10 ｄ

【現代語訳】

　火をともしているのを、消させて降りたために、とても暗くて、入る方向もわからないので、「（どうした、わからないのか）不審だ、ここにいるよ」と言って、（兼家は）手を取り導く。「どうして、（来るのに）こんなに長く時間がかかったのか」と言って、数日来あったことを、少しずつ話して、しばらくあって、（兼家は）「火をともしつけろ。たいそう暗い。少しも心配なさることはない」と言って、屛風の後ろに、火をぼんやりとともした。「（病の加持祈禱のため肉食を避け精進していたので）まだ魚なども食べず、今夜（あなたが）いらっしゃったら共に（食べよう）と思って準備してある。さあさあ」などと言って、（そば仕えの者に）さし上げさせた。少し食べるなどして、徳の高い僧たちが（兼家邸に）いたため、夜が更けて、（僧たちが）護身法を（しよう）ということで来たところ、（兼家が）「今はお休みください。ここ数日よりは少し楽になっています」と言うので、徳の高い僧は、「そのように（＝体調が落ち着いて）いらっしゃるようだ」と言って、立っ（て退出し）た。

　そして、夜が明けたので、（私が）「人をお呼びください」と言ったところ、（兼家が）「どうして。まだひどく暗いだろう。しばらく（ここにいなさい）」と言っているうちに、明るくなったので、（召し使いの）男たちを呼んで、蔀を上げさせて（外を）見た。「ご覧なさい、（庭の）草花はどのように植わっているか」と言って、外を見ているので、（私が）「ひどく都合の悪い（明るさの）時分になってしまった」などと急ぐと、（兼家が）「どうして。今は粥など召し上がって（ください）」と時間が経つうちに、昼になった。そこで、（兼家が）「さあ、きっと共に帰ろう。再び（ここに来るの）は、気にくわないだろう」など言うので、（私が）「このように参上して来たことさえ、（ほかの）人はどう（言う）かと思うのに、（もしほかの人が）お迎えだったのだなと思うならば、非常にいやで不愉快だろう」と言うと、「それならば（仕方ない）。男たち、車を寄せろ」と言って、（車を）寄せると、（兼家は車に）乗るところにも不十分に（危ない足取りで）歩み出たので、たいそうしみじみと心打たれて（兼家の姿を）見ながら、「いつですか、（私のところへの）お越しは」など言う間に、涙が浮かんだ。（兼家は）「たいへん不安で落ち着かないので、明日明後日の間くらいにはきっと参上しよう」と言って、ひどくもの寂しそうな様子である。少し（車を外へ）引き出して、牛に（牛車の轅を）かける間に見通すと、（兼家は先ほどまで）いた所に帰って、こちらを見て、しんみりとしている、その姿を見ながら（車を）引き出すと、思わず知らず、（兼家のほうを）振り返って見ることばかりせずにいられないのですよ。